



都市協会合同審判トレーニングセンター

—◆◆— 2019 年度 活動報告 —◆◆—

西ノロッケ

姫路

但馬

西播磨

東播



開催要項

予定実施日	2019年12月8日(日)				
時間	09:00～16:30 (役員集合 08:30)				
会場	淳心学院 視聴覚室および体育館				
メインテーマ	『副審』 第6条・9条・11条				
目的	<p>普段の試合や研修会において、『主審』に関するテーマが多く取り上げられるが、『副審に特化した内容』について伝えられることは限りなく少ない。</p> <p>都市協会の割当の多くは副審の割当が多く、何も準備をすることなく試合に臨む審判員が多いのが現状。しかし、それでは正しい判定に導くことは難しいし、レベルアップにはつながらない。副審として、日頃からどのような準備が必要か？実際にどのような方法で実践していけばよいか？といった、普段知り得ることのできない内容に絞って研修会を実施し、判定の精度やパフォーマンスの向上につなげることを目的とする。</p>				
時間	場所	実施内容	詳細	担当	
9:00	視聴覚室	集合、受付	受付時、資料配布		
9:05 - 9:10		◆西ブロックトレセン代表挨拶		西播磨協会 (小松精二)	
9:10 - 9:30		◆オープニング『なぜ副審が必要なのか』		姫路協会 (藤本祐作)	
9:30 - 10:10		◆正しい判定をするために	グループディスカッション(ダイヤモンドナイン形式)		但馬協会 (坪倉徹弘)
		◇第6条 その他の審判員 (5分) フラッグを用い正しい合図の (10分) ディスカッション 簡単なグループ ディスカッション (10分) 上記ディスカッション発表 (3班×3分) (15分) 上記ディスカッション結果 フラッグを用い正しい合図の仕方			
		休憩			
		◆正しい判定をするために	グループディスカッション(ダイヤモンドナイン形式)		
10:20 - 11:00		◇第9条 ホールインプレーおよびホールアウトオブプレー (5分) 説明 ダイヤモンドナイン形式 (15分) グループディスカッション (15分) ディスカッション発表 (5分) まとめ			西播磨協会 (西山孝)

スケジュール

10min		休憩		
11:10 - 11:50		<p>◆正しい判定をするために 映像を使用しラインキープと見極め</p> <p>◇第11条 オフサイド (5分) 過去の経験で判断が難しかったのはどのようなケースか？(講師 & 受講者の経験談) (10分) 映像によるオフサイド判定テスト及び説明 (答えを紙に記入) (10分) 回答の確認及び回答映像の確認 (15分) 間違いが多かったシーンの検証 (スロー再生を見せ、オフサイドラインキープや目線の重要性を再確認させる)</p>	東播協会 (上野和彦)	
70min		昼休憩、着替え、準備、体育館に移動		
13:00 - 13:40		<p>第6条 ◆フラックテクニック ◆2つのラインを結ぶ動き</p>	<p>トレ1: 2つのラインを結び、体の使い方や視野を確保する トレ2: 状況に合わせたフラッグの正しい示し方 トレ3: 動きを入れたフラッグの正しい持ち方</p>	但馬協会 (坪倉徹弘)
10min		休憩及び準備		
13:50 - 14:30	体 育 館	<p>第9条 ◆ラインアウトのフラッグUPのタイミング ◆インプレー及びアウトオブプレーの判断</p>	<p>トレ1: ゴールライン上停止ボールでのIN/OUTの判断 トレ2: タッチライン攻守競り合いでの判断 1,2共に3人が違う場所からジャッジする。</p>	西播磨協会 (西山孝)
10min		休憩及び準備		
14:40 - 15:20		<p>第11条 ◆ラインキープによるオフサイドの見極め</p>	<p>トレ1: DF側を固定し、FWが歩き交差する トレ2: 両側からの単純なすれ違いによる判定(徒歩) トレ3: 両側からの単純なすれ違いによる判定(ｼﾞｯｸ)</p>	東播協会 (上野和彦)
25min		休憩、クールダウン及び視聴覚室に移動		
15:45 - 16:15	視 聴 覚 室	◆Recap(振り返りとおさらい)	良かったところ、改善すべきところを解説する。	姫路協会 (松本実)
16:15 - 16:30		◆質疑応答	終了後 受講者は解散	
16:40 - 17:20		◆4協会 役員反省会	準備期間を含め、トレセンの評価・反省	(松本 実)
17:30		終了	後片付け	



「ワークショップ」とは・・・・・・・・研究集会・参加者が自主的に体験する講習会。

「グループディスカッション」とは・・・複数の被験者による討論のことをいう。集団討論ともいう。

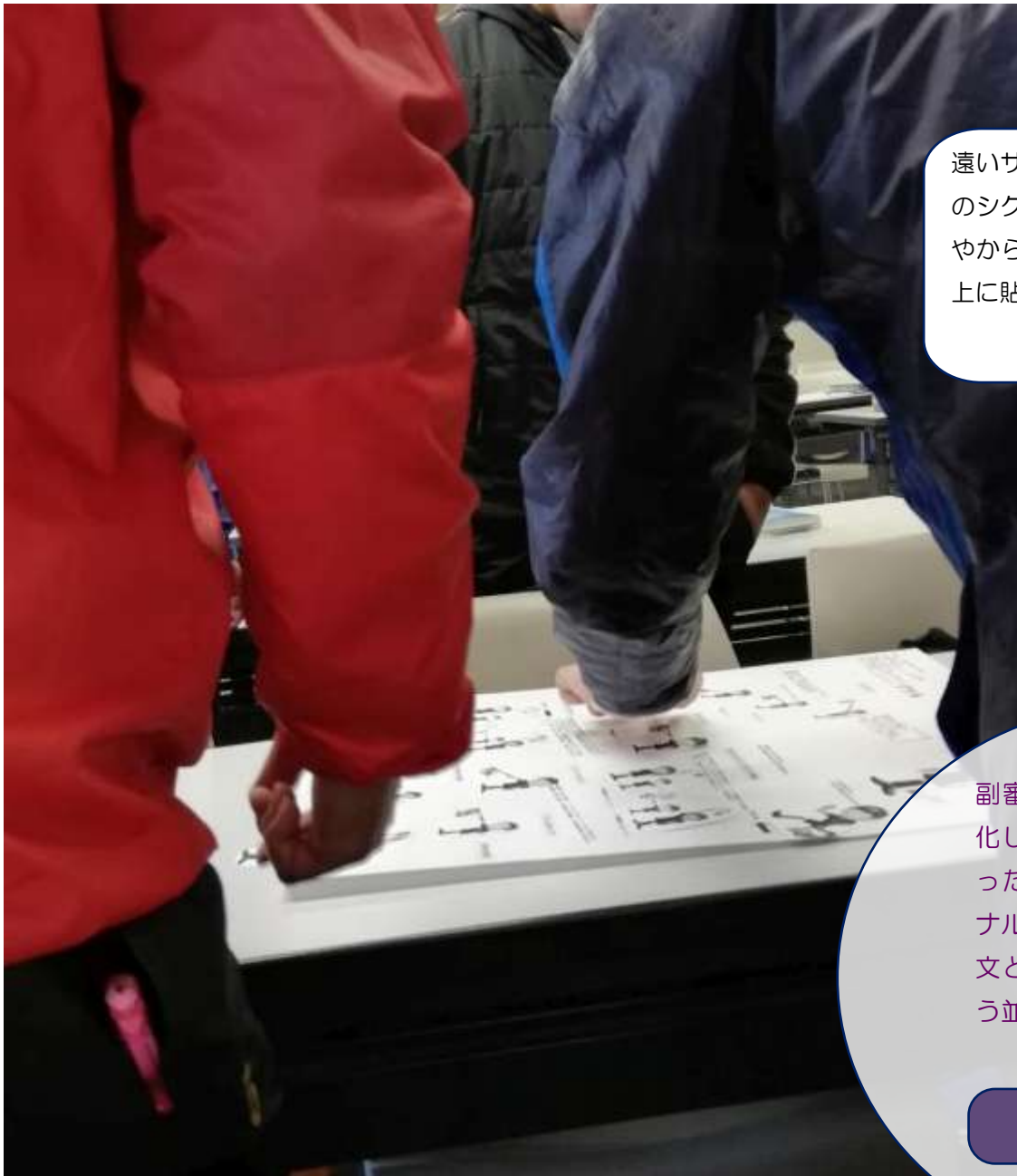
「ダイヤモンドナイン」とは・・・・・・・・あるテーマを決め、その中で重要となる[9つのワード]を提示し、参加者が一緒になって考え、意見を述べ、重要度の高い物を上から順番に並べる手法。



副審を務めるにあたり、行なうべきことや適切なシグナルを再確認する為に各ワードを重要度の高い順に並べるワークショップを披露しました。

【ダイヤモンドナイン】

ワークショップ



遠いサイドでのオフサイドのシグナルはこのイラストやから...こっちの説明文の上に貼ればええんやな....



副審のシグナルをイラスト化し、アウトオブプレーとなった際にその都度出すシグナルについて、班ごとに説明文とイラストが合致するよう並べ、発表し合いました。

ワークショップ



第6条 その他の審判員

副審のシグナルについて理解度を確認します
各グループごとに各シュチエーションを記載している台帳とシグナルのイラストをお配りします
しますので各グループで相談のうえ、正しいと思われるシグナルのイラストを貼付けてください。

10分間程度

2019年度 西ブロック都市協会審判トレセン

「オフサイドについて」

競技規則 第11条



第11条

オフサイド

Jリーグで実際にあった数シーンを見て、解答用紙にその都度「オフサイド」or「オフサイド」を判定し、挙手にて答え合わせをしました。

【オフサイド映像テスト】

ワークショップ



視野を確保するトレーニング

- 1 ビス②と⑥が直角に交わる場所に副審役
①が位置取り、②⑤の上下の動きに合わせて常に適切なポジションを取る。
- 2 腕を真っ直ぐ伸ばして、オフサイド！
- 3 このボールは IN or OUT?
3つのポジションから比較してみよう。

午後からは、研修会場を体育館に移し、良い判定に繋がる目線や身体の向き/動き、シグナル、立ち位置によってボールの見え方の違い等、改めて基礎から教わりました。

実技・基礎練習



実際にオフサイドの判定を行なうセッション。FW/DFがすれ違う瞬間にパスを出し、その都度判断。何度も繰り返すことで判定精度を上げていきました。

プラクティカル・
トレーニング



2019年度 西ブロック都市協会資料トレセン

「副番について」

1日の振り返り



各セッション共に終了前には必ず「やったことの振り返り・再確認」を行なうことで、より深い理解へと導きました。

振り返りとおさらい

--- 講師兼運営委員 ---
藤本祐作(3級審判員)

振り返って

今年度の西ブロック都市協会合同審判トレセンは、各都市協会の各種指導者や社会人チーム登録者等計15名を対象に、「『副審』第6条・第9条・第11条」をテーマとして、姫路協会がまとめ役なり、但馬協会は第6条、西播磨協会は第9条、東播協会は第11条についての講義とプラクティカルトレーニングを担当し、4協会が協力して実施することができました。

このような形で開催した理由は、副審を担当することが多い参加者が、副審として「日頃からどのような準備が必要か?」「実際にどのような方法で実践していけばよいのか?」というような内容に絞って研修を実施し、自信を持って正しい判定ができるようになるためには、各都市協会での現状や経験を踏まえることで、より一層、実践的で有意義なトレセン活動になると考えたためです。

また、昨年度は姫路協会を中心に、西播磨協会、但馬協会、東播協会にご協力をいただく形で約40名のユース審判員を対象に行い、その後の継続的なトレセン活動を通して、2級審判員も誕生しました。そのような人材発掘や審判活動の展開を西ブロック全体に広げ、各都市協会においても様々なトレセン活動や研修会を設けられるようにしていくことでこそ、今後のサッカー界の発展に貢献できると考えたからです。実際に、去年の経験を基に役割を分担し、8月より入念に行った事前の打ち合わせの段階から、意見交換や情報共有を行いながら進めることができました。

オープニングでは「なぜ副審は必要なのか」をテーマに、サッカーにおける審判の存在意義や、競技規則や審判員の歴史的背景も踏まえ、審判活動に意欲的になっていただくとともに、副審として学ぶべきことが当日のプログラムに詰まっていることを理解していただきました。

午前の講義においては、「第6条その他の審判員」では副審が示すべき正しいシグナルとその意義について、「第9条ボールインプレーおよびボールアウトオブプレー」では正しい判定に導くために必要なことについて、グループディスカッション形式で実施し、参加者から積極的な意見や発言もあり、各グループごとにそれぞれの立場からよく考えられた見解を発表することができました。さらに「第11条オフサイド」については、映像を使用したオフサイドテストも実施し、オフサイドの見極めの難しさを体感していただきました。

午後のプラクティカルトレーニングでは、副審のシグナルのなかでもフラッグテクニック、動きや目や体の使い方の工夫について実施し、即実践できるテクニックを身につけていただきました。そして、第9条と第11条について実際に判定を行い、午前に頭で考えたことをすぐに実践し、副審としてやるべきことが明確になったと思います。最後は実際にオフサイドのシーン(シンプルなすれ違い)を判定してもらい、改めて難しさを感じていただくとともに、どこを見るべきなのかを実感していただきました。

参加者の皆さんは、一日の最初に「審判活動に意欲的な方」「上級審判を目指したいと思っておられる方」と尋ねても前向きな反応がなかったのですが、デスカッションやプラクティカルトレーニングを進めるごとに、次第に会話や笑顔が増え、一生懸命に取り組む中で多くの新たな発見や自発的な質問が出てきて、休憩時間や実践の合間にもインストラクターの周りに輪ができていたのが印象的で、とても嬉しく感じました。一緒に審判活動を行い、共にサッカー界を支えて行くことのできる方が一人でも多くいらっしやると光栄です。

また反省会において参加したすべての都市協会も「やる前はイメージがわからなくて難しかったし準備も大変だったが、やって良かった。今回出てきた課題をさらにブラッシュアップして、各都市協会においても研修会を実施していきたい。」という感覚を持つことができたので、この経験を今後にどれだけ生かせるか、大変楽しみになりました。最後になりましたが、今回の西ブロック合同トレセンにご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

また、サッカー界のより大きな発展を心から祈っております。

姫路協会 審判委員会 総務部長 藤本祐作(3級審判員)

副審の役割① 副審として

第9条

ボールインプレー
および
ボールアウトオブプレー

どちらのチームが
プレーの再開を
行うかの合図
(得点を含む)

ラインジャッジ

第11条

オフサイド

オフサイドが
成立した時に
主審に合図

副審の役割② 必要に応じて主審を援助する

競技のフィールド、
ボール、競技者の用具
の点検

フリーキックの際、
10ヤードを
コントロール

時間・得点・不正行為などの記録

ファウルを
旗で知らせる

警告や退場の
判定について

お 礼

---運営委員長---

松本 実(姫路協会審判委員長)

当日説明・実施した資料(一部紹介)

校舎側

●配置と役割

①はレフェリー
②はマーカークーンの間をサイドステップで動く
③は止まっている
④は待機
⑤はマーカークーンの間をフロントバックで動く

●1人あたり30秒間実施する。
●②と⑤は、それほど速く動かなくて良い。
●30秒経ったら、時計回りにローテーションする。
(①は②、②は④、④は③、③は⑤、⑤は①へ)

Must know (必ず知っておくべきこと)

Must knowに関しては、みなさんが副審を担当する際、必ずやらなければならない任務です。

- ボールの全体が完全にラインを越えたかどうかの見極め
- どちらのチームの競技者が最後にボールに触れたのか
- 正しいポジショニング

Should know (知っておくべきこと)

Should knowに関しては、Must knowをより正確に行うためのアシストポイントです。

- 慌てず、冷静に
- 主審との協力(アイコンタクト、フラッグテクニック)
- 目や体の向きと使い方

Could know (知っておくと役に立つこと)

Could knowに関しては、Must knowとShould knowをさらに助けてくれるポイントです。今すぐには出来なくても、知っておくと今後の審判活動で活かせるはずですので覚えておきましょう。

- 責任感
- 雰囲気を感じる力
- プレーの予期予測

合同トレセンを実施するようになって今回で2回目となりました。昨年は姫路協会が全面的に舵を取っていましたが、今年は支援協会に担当を振り分け、各セッションを担当していただきました。

いろいろと準備が大変でしたが、受講者だけでなく、担当者・運営委員それぞれが勉強になり、やっていく中で成長することができました。

今後も引き続き合同トレセン活動を進めて参りますので、各種からご参加賜りますようよろしくお願いいたします。